

2009年11月30日

肝炎対策基本法成立を受けての各党の発言

民主党	鳩山首相	本当に長い間頑張られたことが実を結んだ。しかし、その間多くの方がなくなったのは残念。予算が不十分ならば皆様の期待には応えられない。まだ先は長いが新政権として、命を大事にする政治を実現すべく頑張っていく。
	小沢幹事長	これからの予算付けが重要となる。また、B型肝炎訴訟の解決も重要な課題である。今後とも頑張っていく。
	長妻厚労大臣	これを糧にB・C型肝炎患者の医療費助成をしていかなければならないと考えている。
自民党	谷垣総裁	皆さんの長年の懸念が基本法という形で実ってよかった。基本法ができたことが、未だ未解決の問題(B型肝炎訴訟の解決など)についてのいいきっかけになれば良いと考えている。
	福田元首相	2年前の皆さんの必死の気持ちが伝わった。基本法で一步前進。おめでとうございます。
	舛添元厚労大臣	未だ第1歩に過ぎない。法案が心残りだったので、成立してほっとした。まだまだやることがたくさんあるので、今後とも努力していきたい。二度と薬害が起きないように一緒に頑張っていきたい。
公明党	山口代表	前政権中、そして政権交代後も成立に向けて努力してきた。これからの実施の面も含めてお手伝いしていきたい。
	赤松議員	B型肝炎の早期解決の問題も受け止めて今後もしっかりやっていく。
共産党	志位委員長	皆さんの勇気ある戦いが背中を押してくれた。薬害の問題にとどめず、350万人の救済のために声を上げていく。これから、以下の3つの大きな問題がある。 ①法15条の患者の経済的負担の軽減の具体化インターフェロン治療費の無料化はもちろん、抗ウイルス薬や強ミノなどについても、予算を付けていく。②法19条の肝炎対策協議会について、その委員構成や内容等について。③B型肝炎訴訟の早期解決。
社民党	福島党首	一緒に頑張ってきた友達という感じをしている。患者の人達が苦労するのはおかしいと思っていた。本当にお疲れ様。基本法が成立した後のフォローをしっかりとらせて頂きたい。特に、予算措置、きめ細かいフォローを内閣の中でも、個人としても、党首としても、議員としても頑張っていきたい。
新党日本	田中党首	一番恐ろしいのは、基本法ができてそれで終わりになること。そうならないように今後も協力していく。